

[6] 高原町小体連 (学校数 4校 児童数 447名)

I 年間事業

回	月 日	内 容
第1回	5月20日(金)	役員選出、規約の確認、年間計画等、県小体連評議員会報告
第2回	6月30日(木)	本年度の研究について、水泳大会計画案検討
第3回	7月25日(月)	水泳大会前日準備・名簿作成等
第4回	7月26日(火)	水泳大会実施・反省、研究関係
第5回	8月30日(火)	県小体連理事会・専門部会の報告、陸上大会計画案検討
第6回	10月17日(月)	陸上大会前日準備・名簿作成等
第7回	10月18日(火)	陸上大会実施・反省、研究関係
第8回	12月 6日(火)	本年度の取組のまとめ
第9回	2月24日(金)	本年度の反省、次年度への引継ぎ、会計報告等

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 平成28年度高原町小学校体育連盟水泳大会
- (2) 実施日 平成28年7月26日(火)
- (3) 会 場 高原町立高原小学校プール
- (4) 出場者 高原町内各小学校5・6年生代表児童(延べ人数 約220名)
- (5) 実施種目
 - ・ 25m(自由形、平泳ぎ) ・ 50m(自由形、平泳ぎ)
 - ・ 200mリレー
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする。
 - 出場は、リレーを除いて一人2種目まで参加可能とする。
 - 競技は、学年別、男女別を実施する。
 - 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。
- (7) 日 程

開会式	9:00	競技開始	9:35
競技終了	11:15	閉会式終了	11:40
- (8) 表 彰
 - 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。
- (9) 反 省

練習期間が少ないにも関わらず参加児童は、持てる力を精一杯発揮し、応援も大変盛り上がった。平泳ぎの泳法違反があり、次年度は各学校での指導を徹底したい。連続して出場する児童の水分補給などの課題も残った。

2 陸上大会

- (1) 大会名 平成28年高原町小学校体育連盟陸上大会
- (2) 実施日 平成28年10月18日(火)
- (3) 会 場 高原町立高原小学校運動場
- (4) 出場者 高原町内小学校5・6年生児童(延べ人数 約220名)

(5) 実施種目

- ・ 一般走100m (5・6年生男女)
- ・ 800m走 (5・6年生女子)
- ・ 400mリレー (5・6年生混合男女)
- ・ 走り高跳び (6年生男女)
- ・ ソフトボール投げ (5・6年生男女)
- ・ 選抜走100m (5・6年生男女)
- ・ 1000m走 (5・6年生男子)
- ・ 走り幅跳び (5・6年生男女)

(6) 競技方法

- 出場は、一人2種目まで参加可能とする。2種目出場の際は、トラック競技とフィールド競技の各1種目ずつとし、トラック競技のみ、あるいはフィールド競技のみ2種目とならないようにする。また、リレーに出場する場合のみ、3種目まで出場できるものとする。
- 競技は、学年別、男女別を実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日程

開会式	8:30	競技開始	9:00
競技終了	11:00	閉会式終了	11:15

(8) 表彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

(9) 反省

晴天に恵まれ、児童が自分の力を思う存分発揮することができた。役員数が少ないため、中学校の体育科の先生にも役員を依頼した。役員の仕事内容の確認、安全な場所の確保等に課題が残った。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成」
－「できる」を意識したゲーム・ボール運動領域の指導を通して－

2 主題設定の理由

本町では、スポーツ少年団活動が盛んであり、例年、各団体で成果が報告されている。ところがその一方で、入団している児童と入団していない児童との運動技能の二極化が見られるとともに、例えば「野球を習っている子は野球ばかりをしようとする」など、日常的に取り組んでいる運動種目とそうでない種目との個人内での二極化も見られる。このような中、高原町小体連では、「児童の体力の向上のためには、日頃の体育科学習の充実と、生活の中で日常的に体を動かすことが大切である」とし、運動の課題を明確にし、友達と関わり合いながら運動に取り組んでいくことを大切に授業の工夫・改善について研究を積み重ねてきたところである。

特に今年度は、宮崎県学校体育研究会の開催地区でもあることから、本大会の研究の方針に沿って、えびの市小体連、小林市小体連の研究内容との関連を図りつつ、発達の段階に応じた「わかる」「できる」「かかわる」授業の創造と展開を視野に入れた体育科学習の在り方について研究を進めることが求められている。

運動が「できる(技能)」という実感は、運動に「かかわる(態度)」ことや、運動が「わかる(知識、思考・判断)」ことに深く結びつくという大会基調の提案は、本町児童の課題とも直結するものである。

